10/17朝日

「自民候補の応援 自衛隊に報いること」

木原防衛相 補選演説に批判

翌日撤回 識者「政治的中立性侵す」

海自佐世保地方総監部に到着した木原稔防衛相＝16日、長崎県佐世保市平瀬町

木原稔防衛相は15日、衆院長崎4区補欠選挙の応援演説で、「（自民党候補を）しっかり応援していただくことが、自衛隊並びにその家族のご苦労に報いることになる」と述べ、支持を呼びかけた。木原氏は16日、「誤解を生む」として発言を撤回した。しかし、防衛相としての地位を利用し、政治的に中立であるべき自衛隊を政治利用していると受け止められる発言であり、20日召集の臨時国会で野党側から追及を受けるのは必至だ。

木原氏は16日、視察先の海上自衛隊佐世保基地（長崎県佐世保市）で記者団に対し、「自衛官とその家族への敬意と感謝というものを申し上げた。必ずしもその真意が伝わらなかったとすれば、今後は気をつけたい」と述べ、「撤回しないのか」と問われると、「もしそういう誤解を生むということであればその部分は撤回したい」と語った。

木原氏は15日、同市内での自民党候補の集会で、野党が防衛費の増額に反対していると指摘し、「私はそういう方に佐世保の代表になってほしくない」と強調。そのうえで、自民党候補の名前に言及し、「しっかり応援していただくことが、自衛隊並びにその家族のご苦労に報いることになり、佐世保の発展にもつながっていく」と訴えた。

しかし、実力組織の自衛隊をめぐっては、自衛隊法で隊員の選挙権の行使を除く政治的行為を制限しているように、とくに政治的中立性が重視されている。大久保史郎・立命館大名誉教授（憲法学）は「木原氏は自衛隊という言葉を使い、特定の候補者への投票を呼びかけている。選挙結果に影響を及ぼしかねず、政治的中立性を明らかに侵している」と指摘している。

政府は火消しに追われた。松野博一官房長官は16日の記者会見で、「自衛隊は政治的に中立で、特定の候補者を応援することはあり得ない」と釈明。防衛省内でも「政権の支持率に響く」（政務三役）との懸念の声が出た。しかし、岸田文雄首相は同日、記者団に対し、すでに発言は撤回されたとして「（木原氏は）引き続き職務にあたってもらいたい」と語った。

野党は「明らかに地位を利用し、政治的中立を逸脱した行為」（立憲民主党の安住淳国会対策委員長）、「誤解ではなく、どこから見ても自衛隊の政治利用だ」（共産党の小池晃書記局長）と国会で追及の構えを見せる。

自衛隊の「政治利用」批判をめぐっては、2017年の東京都議選で、稲田朋美防衛相（当時）が自民党候補の応援演説で「防衛省、自衛隊、防衛大臣、自民党としてもお願いしたい」と訴え、のちに発言を撤回した。

（田嶋慶彦、編集委員・土居貴輝）